た糸から落ちたビーズのように、涙は大粒で途切(とぎ)れなく落ちた。

「ビービー」

と後ろからした警笛(けいてき)の音にセレナは気付かなかった。

「ゴロゴロ…。バーン」

耳を劈(つんざ)くような雷の音と共に、スピードを出して走ってきた車がセレナの所へ突(つ)っ込(こ)んだ。交通事故だった。

セレナは倒れ、稲妻(いなずま)が空を照らした。泣き声は徐々に小さくなり、雨の音と微(かす)かな呼吸がそれに取って代わった。雨水(あまみず)に流された紫陽花(あじさい)が川のようにセレナを取り囲み、まる